

12月になりました

毎月19日は高原ランチの日です。神石高原町の特産がふんだんに使われ、高級な食材も使われた給食が提供される日です。「校長先生、今日は高原ランチじゃね」と子供たちも朝からうれしそうです。

私は、子供たちがモリモリ給食を食べる姿を見るのが好きです。小食だった子供が成長に伴い、残さず食べられる様子を見るのが好きです。嫌いだった食べ物を自分で少しずつ食べてみるなど努力して食べられるようになった姿に感動します。

私は、「食べることは、生きること」と思っています。先日の全校朝会で「給食を作ってくたり、運んだりしてくださった方に感謝し、給食を注ぎ分けてくれる友達に感謝し、食材を育てたり、獲ったりしてくださった方に感謝し、感謝の気持ちを姿に現していただきましょう。そして、モリモリ食べて丈夫な体を作りましょう。給食は、体の成長に必要な栄養を考え抜いて作ってあります、体に大切な栄養は何か考えてみましょう。」と話しました。

子供たちの成長を感じる給食時間にもよく教室をめぐります。三和小学校の子どもたちは、感謝の気持ちで残さずモリモリ給食を食べたり、少しずつ食べる量が多くなったりしています。自分が好きでない食材にも自ら挑戦し、食べられるようになる努力をしている子供もたくさんいます。学校では、アレルギーでないかぎり（アレルギー反応に近いものも含みます）、一口でも口をつけてみることを推奨しています。（強制はしませんが、声かけはします。）これは、食べることができる食材が多いほど、豊かな食生活を送ることができる考えるからです。口に少しでも入れてみないと、食べられるようになったかはっきりしません。その時難しければ、次の時チャレンジしていけばよいと思っています。

また、食事には、生まれた国の文化の中で育まれてきたマナーがよく見られます。日本での給食は、日本のマナーをもとに指導していきます。マナーを守っている人は、上品に見えませんか？マナーは、自分のことだけでなく、周りの人を思いやるということに意味づけられた行為です。私は、子供たちが社会を生き抜いていく中で、上品であってほしいと願っています。そのために、まず基本的なマナー（姿勢を正す、箸の持ち方、器を持つ、または、器に手を添えるなど）について、声をかけたり、頑張っている子供を褒めたりして意識づけていきたいと思います。マナーを教えますから、叱ることはしません。ご家庭、地域での教育の連続として、学校でマナーを復習できるような環境にしていきたいと思っています。

学力については、9月の学校通信でお知らせしましたように、子供たちの学力の実力が発揮できるよう、子供も、先生も「ねばり強く」「がまん強く」「みんなのことを考えて」取り組み、全体としてよい結果が出てきています。そこで、食を通しての教育（食育）について、子供と先生で取組を一層進め、「三和小学校の子供」が社会の中で生き抜く力をつけることができるようにしていきます。

ご家庭・地域でも、食事のマナーを守っている子供がいればほめてあげてください。ほめる人が増えれば増えるほど、よい行いは子供たちの中に浸透します。これからも、学校教育へのご理解、ご協力どうぞよろしくお願いいたします。



神石高原町立三和小学校

校長 前田 静樹